



にし組



異常な暑さでプール遊び、戸外遊びもできない日が多く、みはりん棒(暑さ指数も表示してくれる優れものの気温計)とにらめっこの毎日でした💧  
春に植えたきゅうり、なす、トマトが大きく成長し、何度も収穫して美味しくいただくことができました♪採れたて新鮮なきゅうりはトゲトゲがするどくて痛いこと、トマトは茎や葉っぱを触ると手がトマト臭くなること、なすはアルミホイルを被せると(紫外線を浴びないと)白くなること、などなど味のおいしさ以外にもたくさんの発見がありました！  
そして、収穫した野菜を使ってカレー作りをすることもできました。  
チームごとにカレーの具材を何にするかの話し合いからスタート。  
たくさん意見を出して話し合いをリードする子、みんなの前で意見を伝えるのが苦手な子…など、子どもの姿は様々ですが、意見を言っていない子に対して「〇〇ちゃんはどう思う?」「〇〇くんは何を入れたい?」とみんなの意見を聞こうとする姿が見られていました。意見を伝えるのが苦手な子も、少しずつ意見が言えるようになり、みんなの成長が感じられるひとコマでした。  
「私が切ったにんじん、おいしい〜♡」「トマト入れると酸っぱくなるんだねー!」「隠し味の味がしておいしい!」と、出来上がったカレーに大満足の子ども達でした😊



### 「子ども達の心の中の“甘える壺”を満たすために」

保育園の研修で受けた小児科医 多賀先生の「甘える壺」のお話を少しお伝えしたいと思います。

子ども達は心の中に「甘える壺」を持っています。この甘える壺を満たすことで、自己肯定感が高まり、自立へと繋がっていきます。

“甘えさせる”と“甘やかす”は大きく違いますが、甘えさせるとはスキンシップや態度、言葉によって「あなたのことを見ていますよ、大切に思っていますよ」という安心感を与えることです。甘やかすとは、大人の都合に合わせて子どもの気持ちを物やお金で埋め合わせすることです。甘やかすことで子どもは喜ぶかもしれませんが、甘える壺は満たされません。

甘えさせてあげるためには、甘えられる環境が大切です。大人でも、たくさんの人の前では甘えることはできないでしょう。それは子どもも同じです。兄弟がいたり、他の人の目があると心置きなく甘えることはできません。ですから、その子とふたりきりで1対1になれる時間を探しましょう。

お風呂に入る時間、買い物へ行く時など、短い時間でも1対1になれる時間を見つける工夫をしてみてください。

仕事や家事で時間に追われていたり、他の兄弟がいて1対1の時間を取るのなかなか難しいのが現実かもしれません。

「今日は一日〇〇ちゃんの日!」とふたりきりでデートするスペシャルな日があっても良いですが、一日のうち、ほんの短い時間でも誰も見ていないところでぎゅっと抱きしめる時間でも、子どもたちの心は十分に満たされます。

(ちなみに多賀先生は「1ヶ月に1回、1対1でお風呂に入る!」を推奨されていました😊) お子さんとの1対1の時間をちょっぴり意識してみてください♪

